

タチウオに似た珍魚 タチモドキ、ナガユメタチモドキ、オシロイダチ

海洋生産技術担当 石川陽子, 上田幸男

Key word: タチウオ, タチモドキ, 尾びれ, *Bethodesmus tenuis*, *Assurger anzac*

105 号の「カギイカ」に続いて、漁況調査で出会った珍しい魚について紹介いたします。
タチウオのようでタチウオではない魚です。

長タチ

一つは由岐の漁業関係者に「長タチ」と呼ばれる、タチウオ曳縄でまれに混獲される魚です(写真1)。

日本近海に生息しているタチウオ属(*Trichiurus*)の魚には、一般的なタチウオ(*Trichiurus japonicus*)のほかに、南方系のテンジクタチ(*Trichiurus* sp.2), オキナワオオタチ(*Trichiurus* sp.1)の4種がいますとされています。実物を見る前に話を聞いた段階で、私は「長タチ」とはタチウオより大型になるテンジクタチのことではないかと推測しました。ところが、「長タチ」はタチウオより「細長い」というのです(テンジクタチはどちらかというと「太短い」印象です)。それでは単に小型の痩せたタチウオかということ、「顔が違う」のだそうです。

2016 年 4 月に水揚げされた 1 尾を譲っていただいて見てみると、確かに顔からすでにタチウオより細長い印象。ですが、それより何より、タチウオに無いはずの「尾鰭(写真1. 右下)」と「腹鰭(写真1. 左下)」があるのです。これは明らかにタチウオではありません。

改めて、2018 年 4 月に水揚げされた 6 尾も譲っていただいて調べてみると、タチウオの仲間(タチウオ科 *Trichiuridae*)には尾鰭のある魚がいくつもいて、「長タチ」は中でもタチモドキ(*Bethodesmus tenuis*)であるということが判りました。

「東シナ海・黄海の魚類誌」(山田ら 2007)によると、タチモドキは北海道南部以南の日本近海のほか、東シナ海やフィリピン等に広く分布しているとのことでした。

このタチモドキを一夜干しにしたところ、身が少ないことを除けばタチウオと遜色ないおいしさでした。



写真 1. 美波町由岐で水揚げされたタチモドキ (*Brthodesmus tenuis*)

ナガユメタチモドキ

尾びれのあるタチウオのような魚のもう一つは「ナガユメタチモドキ (*Assurger anzac*)」です (写真 2)。2020 年 5 月 1 日に橘町のタチウオ曳縄で混獲されたものを譲っていただきました。こちらは漁業者の方も初めて見たものだそうです。

漁獲されたのは 1 尾で、尾叉長は 152cm、体重は 735g、性別は不明でした。タチモドキと同様に、タチウオには無い「尾鰭」と「腹鰭」があります。ですが、タチモドキとは顔が違います。タチウオやタチモドキはヨコから見ると「おでこ」がありません（両眼間隔が平坦で眼が頭部背縁に近接または超える）が、この魚には「おでこ」があります（眼が頭部背縁から離れる）。また、タチウオやタチモドキより歯が少ないようでした。極薄く幅の狭い膜状の背びれの条数が 120 で後端のほう幅が広いことなどからナガユメタチモドキと同定しました。1 尾だけなので本種の特徴なのか内出血なのかは不明ですが尾鰭の基部が赤褐色でした。

この魚も塩を当てて焼いてみると、身は少ないですがタチウオとほとんど変わらない美味しい魚でした。また、骨（椎体）と骨の間隔がタチウオより広く、担鰭骨が柔らかいのでタチウオより食べやすい印象でした。



写真 2. 阿南市橘町で水揚げされたナガユメタチモドキ (*Assurger anzac*)

オシロイダチ

最後の一つは私が直接目にしたものではありません。上の 2 種について調べているときに徳島県職員の先輩が残した資料で見つけた、オシロイダチ (*Eupleurogrammus* sp.) です (図 1)。

昭和 25 年 (1950 年) 発行の徳島県水産試験場事業報告に掲載された「本邦太平洋岸産未記録魚オシロイダチに就いて」のなかで、堀田秀之さんという方が京都大学の岩井保さんとともに、日和佐沖で漁獲されたオシロイダチという魚を報告されていました (当時の報告では、オシロイダチはタチウオ属 (*Trichiurus*) とされていますが、その後分類が変わったようです)。この魚には尾鰭はありません。しかし、腹鰭と「おでこ」があるそうです (眼が頭部背縁から離れる/頭部外郭が凸出し、平坦でない)。

この報告の後にオシロイダチが徳島県内で水揚げされた記録はありませんが、機会があれば是非お目にかかりたいものです。

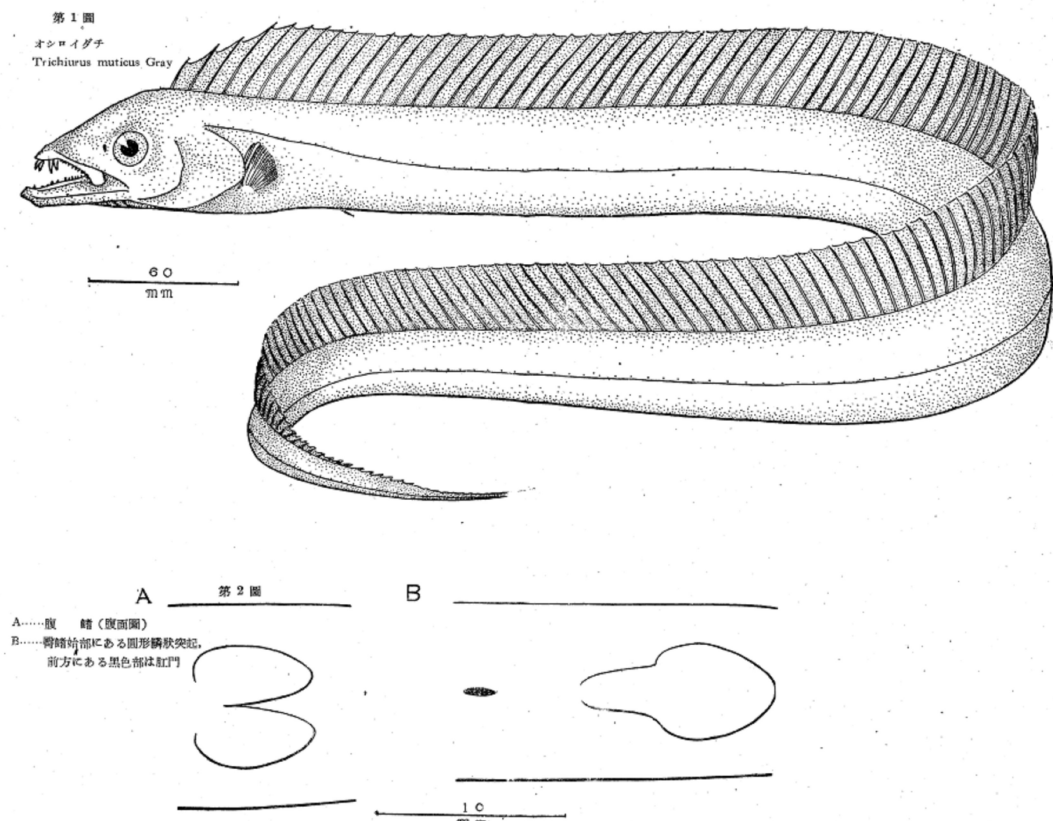


図 1. 昭和23, 24年度徳島県水産試験場事業報告に掲載されているオシロイダチ

まだまだ知らない魚がいっぱい

今回紹介した3種の魚は、日本の普通の魚図鑑には出てこない珍魚ばかりでした。いずれもタチウオより深い海に生息していると考えられている魚です。2017年8月から続く黒潮の大蛇行や、それに伴うタチウオ漁場の変化で漁獲されるようになったのかもしれませんが。2020年6月現在、黒潮大蛇行期間が史上2番目の長さ（2017年8月～）となっており、まだ収束の兆しが見えていませんので、今後も珍しい魚が漁獲されるかもしれません。それにしても、徳島の海にはまだまだ知らない魚がたくさんいる、そう思うととてもワクワクします。

最後になりましたが、タチモドキをくださった東由岐漁協の兵庫氏、ナグユメタチモドキをくださった橘町漁協の甘利氏にこの場を借りて改めて御礼申し上げます。

参考文献

藤沢正宏・青沼佳方・明仁・池田祐二・岩田明久・坂本勝一・島田和彦・瀬能宏・中坊徹次・波戸岡清峰・林公義・細谷和海・山田梅芳・吉野哲夫「日本産魚類検索－全魚種の同定－」（中坊徹次編）東海大学出版会，東京．1993

山田梅芳・時村宗春・堀川博史・中坊徹次「東シナ海・黄海の魚類誌」東海大学出版会，神奈川．2007

岩井 保・堀田秀之「本邦太平洋岸産未記録魚オシロイダチに就いて」昭和 23,24 年度徳島県水産試験場事業報告．1950